

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート(最終報告)

学校名(木本高等学校 定時制)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		・自分の良さを伸ばしながら、目標や夢の実現に向けて努力を続ける生徒を育成する学校 ・地域に誇りを持ち社会に役立つ人を育み、地域に信頼される学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	・自分への自信と誇り、他者への思いやりの心と規範意識を持ち、学習に積極的に取り組む生徒 ・地域に誇りや愛着を持ち、地域に信頼され、地域に貢献する力を持つ生徒
	【グラデュエーション・ポリシー】	
	ありたい教職員の姿	・目指す学校像の実現に向け、連携の意識と向上心を持ち、自分の良さを活かして仕事をする教職員。 ・生徒の状況を理解し、それぞれの生徒に合わせた一人ひとりを大切にする指導をする教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 仕事や家庭と学校生活を両立しながら安心して学習し、学力と社会性を身につけ、高校卒業資格を得たい。 <保護者> 毎日楽しく学んで成長し、進路希望を実現させてほしい。 <地域社会> すべての生徒が安心して学べる場を確保し、地域に貢献する人材を育ててほしい。 <進路先> 基礎学力、コミュニケーション力、自主性、規範意識を持った人材を育ててほしい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<保護者> 学力と社会性を身につけ、高校卒業資格を取らせたい。 <中学校> 学力と社会性を身につけ、高校卒業資格を取らせたい。 <地域社会> すべての生徒の学ぶ場を確保する意味でも、教育活動を継続してもらいたい。	<保護者> 緊密な連絡・協力体制づくりに協力をお願いしたい。 <中学校> 生徒に関する情報提供、指導への支援・協力をお願いしたい。 <地域社会> 外部講師、情報提供等、教育活動への支援・協力をお願いしたい。
(3)前年度の学校関係者評価など	・生徒が安全で安心して学校生活を送れるようにしてほしい。 ・中学校や関係機関等の連携を充実させてほしい。 ・木本高校定時制の魅力を地域に積極的に発信してほしい。	

(4)現状と課題	教育活動	<現状> ・さまざまな課題、背景を持つ生徒が学んでおり、引き続き生徒一人ひとりに合わせた丁寧できめ細かい指導が必要である。他校からの転入生も数名おり、在学期間が短く、学校への帰属意識や仲間意識が低い生徒も多い。 ・アンケートから、多くの生徒は高校卒業資格の取得を目標にしている。 ・少人数の強みを生かし、生徒一人ひとりの理解をすすめ、教職員間で情報共有することにより、生徒は安心して学校生活を送ることができている。 <課題> ・生徒個々の状況把握に努め、一人ひとりの良さを引き出し伸ばしながら基礎学力の定着を図る。特に、1人1台端末の活用等により意欲を高め、個々の生徒の習熟度に応じた学習、主体的で対話的で深い学びを実現する。 ・安全・安心な学習環境の確保と集団への帰属意識・仲間づくりの取組を進めるとともに、命を大切にする教育と生活習慣の育成を起点にしながら、生徒の成長の基盤となる自己肯定感を高めていく。 ・教育活動全体をとおしてキャリア教育を推進し、卒業後の進路についても考え、卒業までに身につける資質・能力についても意識させるとともに、生徒が各自の進路希望を実現できるよう必要な資質・能力を養う。
	学校運営等	<現状> ・生徒、教職員ともに少人数で、生徒一人ひとりに合わせた教育活動を行いやすいが、集団として活動し、社会性を育むには工夫が必要である。 ・生徒一人ひとりの課題や背景がさらに多様化し、日々の状況把握と情報共有が必要不可欠である。 ・昨年度のコンプライアンス研修では、教職員としての経験年数に応じてそれぞれの教員生活をふりかえり、積極的に意見を交換することにより、教職員一人ひとりのコンプライアンス意識を向上させることができた。 ・授業公開やケース会議などを通して中学校や関係機関と連携できてきた。 <課題> ・教職員間での対話を大切にし、情報共有を積極的に行うことにより、生徒一人ひとりについての理解を進める。 ・教職員が生徒の変化に気づけるよう感度を高めていく必要がある。 ・定時制の魅力や取組内容等をSNS等で情報発信することにより、地域における学びの保障につなげていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・学習意欲を高め、基礎学力定着を図り、生徒が希望する進路を実現する。 ・学校や社会で生活するために大切な規範意識と社会性を育む。 ・様々な教育活動を通して本校への帰属意識と仲間意識が醸成する。
学校運営等	・生徒一人ひとりを大切にする教育活動を充実する体制をつくる。 ・地域との交流や地域の声を聞く機会を持つなど、開かれた学校をつくる。 ・業務の効率化を図り、職員の健康に配慮し、総勤務時間の縮減を図る。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・本校の学習環境や学校生活の仕組み等について基本的事項を理解している生徒 ・本校での学習に取り組むために必要な基礎学力や学習意欲、目的意識等を有している生徒 ・本校での学校生活に必要な規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
命を大切に する教育と 生活習慣の 育成	【命を大切にする教育】 (1)生徒一人ひとりの状況を把握し、教員間で共有します。 (指標:個人面談等の実施、会議等での情報共有) 【生徒指導】 (1)挨拶を励行し、生徒の状況を把握するために、毎日の登校指導を行います。 (指標:毎日の登校指導の実施) 【学級指導】 (1)生徒の心に響き、自分のあり方・生き方を考える人権学習をすすめます。 (指標:学期に1回の人権学習の充実) 【保健・安全】 (1)健康について啓発をすすめるため、保健だよりを発行し、保健指導を行います。 (指標:保健だよりを年4回発行、集会等での講話を実施) (2)校内の安全面からの巡視を行います。 (指標:毎日の校内巡視の実施)	【命を大切にする教育】 ・個別面談を計5回実施 (4,7,9,12,3月) ・いじめ防止強化月間の取組(11/8,29) 【生徒指導】 ・毎日、全職員で登校指導を実施 【学級指導】 ・6/21人権学習 「思いやりのある人になろう」 12/17 人権学習 「私たちがつくる『私たちの学校』」 【保健・安全】 ・3/7「いのちの授業」 ・保健だよりを計4回配付し、指導(4,6,8,1月) ・集会での保健講話 (長期休業の前後) ・全職員で毎時間校内巡視を実施	○
キャリア教育 の充実	【進路指導】 (1)生徒一人ひとりの適性や進路希望を考慮しつつ、きめ細かな進路指導を行います。 (指標:ハローワーク・全日制進路指導部と連携し、個別面談を実施) (2)生徒の職業意識を高めるとともに、求人情報の提供や進路相談を通して、就労への意識を高めます。 (指標:求人広告の掲示、アルバイトの奨励)	【進路指導】 ・ハローワークと情報交換 ・3月卒業2名 →専門学校進学1名 →就職1名 ・アルバイトをする生徒が増えてきている	○
学習指導の 充実	【教科等指導】 (1)生徒の基礎学力の定着のため、教育課程や授業内容の工夫と改善を図るとともに、適切な学習目標を生徒と共有しながら、目標達成のための指導を行います。 (指標:公開授業、教員間の授業見学の実施) (2)単位制・定通併修などの制度について、生徒・保護者への周知を図ります。 (指標:説明会や個別面談を通じた説明の実施) (3)「わかる授業」をめざし、生徒の自己肯定感の向上をテーマにした授業改善の取組を行います。 (指標:生徒ニーズアンケートの計画的実施による結果分析・共有と改善)	【教科等指導】 ・授業公開週間 11/11～15 →授業見学者のべ22名 ・松阪高校通信制との連携 併修生徒1名(2年) ・遠隔授業受講生徒1名(1年)→3科目受講 ・生徒ニーズアンケート実施 (7月,12月) 授業のわかりやすさ 「大変わかりやすい」 (25%,18%) 「わかりやすい」 (35%,35%)	◎

帰属意識の育成	【教科等指導】 (1)総合的な探究の時間や学校行事等を活用し、地域に対する愛着を育むとともに、本校生徒としての誇りを育てます。 (指標:学校行事等に参加する生徒の増加) (2)主体的、対話的で深い学びをすすめ、ともに学ぶ仲間を大切にする態度を養います。 (指標:授業でペアワーク、グループワークを行う)	【教科等指導】 ・熊野古道遠足(4/20) ・総合的な探究の時間での地域学習(5/12) ・コミュニケーションスキルの向上 →グループワークの実施 →体育の合同実施	△
改善課題			
今年度は、特に多様な生徒が入学し、生徒一人ひとりの理解とともに、個別の対応が増加した。教職員間で積極的に情報共有し、一人の生徒に対してさまざまな立場からかかわるようにした。今後もこの傾向が強くなると思われるが、個別の対応とともに、全体での指導を改善する必要がある。これまでのさまざまな取組を検証し、何のためにその取組を行うのかを教職員間で再確認し共有する必要がある。そして、学校行事や授業のあり方など統一した取組についても考えていく必要がある。			

(2)学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員の資質向上・チームワークの向上	(1)コンプライアンス意識向上の取組を進めます。 (取組状況の指標:国や県からの通知や新聞記事等を回覧し、教職員間で対話を行う) (指標:毎回の職員会議で校外の事例を共有) (2)教員間の情報交換会を実施します。 (指標:毎日の打合せ、職員会議等で情報交換を実施)	・コンプライアンス研修(6/19、個人情報の適正管理) (7/11、教職員の綱紀粛正及び服務規律の確保) (11/15、学校における教育活動と著作権) (12/13、1/15、教職員の綱紀粛正及び服務規律の確保) ・毎日、教育に関する新聞記事等を切り抜き回覧 ・始業時に気になる生徒の様子を情報共有	○
地域との信頼関係の深化、情報提供による信頼の構築	(1)中学校や関係機関との連携を深め、地域へ積極的に情報発信します。 (指標:新入生の出身中学校訪問等の実施) (指標:熊野教育支援センター、子ども家庭総合支援室との連携) (指標:授業公開、学校見学会の実施)	・新入生の中学校等訪問(4月当初、1年担任・教頭) ・ケース会議の実施(9/27)(2/25)	◎
保護者との連携、学校の帰属意識の育成	【個別面談】 (1)個別面談を計画的に実施します。 (指標:担任による個別面談の実施) 【情報発信】 (1)すぐーるで「定時制だより」や「保健だより」、時間割変更や個別面談等の連絡を行います。 (指標:月1回以上の発信)	・個別面談を計5回実施(4,7,9,12,3月) ・すぐーるの配信 4月4回、5月17回 6月7回、7月3回 8月6回、9月7回 10月7回、11月1回 12月5回、1月3回 2月15回、3月2回	○

働きやすい 職場環境	(1)業務の効率化を図り、休暇取得を促進し、総勤務時間を縮減します。 (指標:夏季休暇以外の特休及び年休取得(4～1月)の合計日数の平均15日以上) (指標:毎日の定時退校) (指標:60分以内に終了する会議の割合100%) (指標:時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数0人) (指標:時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数0人) (指標:1人当たりの月平均時間外在校等時間30時間以下)	・夏季休暇(5日) 全員完全取得 ・年休等の取得 平均18.4日 ・年休取得促進期間 (6,7,9,12月) ・職員会議(11回中)9回、 60分以内に終了 ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員0人 ・1人当たりの月平均時間外 在校等時間 6.2時間	△
改善課題			
近年、中学校や関係機関と連携することが増えてきている。高校入学までにさまざまな支援を受けてきた生徒が多く、その支援を継続し充実させていくことが重要である。特定の生徒については、定期的にケース会議を行い、関係者で支援の経過を情報共有し、今後の支援のあり方について協議している。高校卒業後の支援の継続についても関係機関と連携していく必要がある。 また、今年度から「すぐーる」で、生徒や保護者等に予定の連絡や情報発信を行っているところであるが、概ね好評である。今後も活用していきたい。			

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	・一人ひとりの生徒理解をもとにした、丁寧な指導を引き続き行ってほしい。 ・中学校や関係機関との連携を今後も積極的に行ってほしい。 ・多様な生徒の学びを保障する場として、その存在価値を高めていってほしい。
-----------------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	さまざまな学習歴を有する生徒に対して、安全に安心して学校生活を送ることができるよう、一人ひとりの生徒理解をすすめるとともに、授業のユニバーサルデザインや遠隔授業等にも取り組み、学びを保障する。また、学校行事や各授業での取組を通して、コミュニケーションスキルを身につけられるようにする。
学校運営についての改善策	教職員間で情報共有を積極的に行い、チームの一員としてそれぞれの教職員が自らの強みを生かし、生徒一人ひとりの成長にかかわる喜びを実感できるようにする。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、中学校や関係機関との連携を積極的に行い、支援の継続及び支援体制の充実を図っていく。